

シドニー派遣研修を終えて

名古屋市立山田高等学校 3年 宮崎あいり

1. 私の研修の目標

以前、私がオーストラリアに親戚を持つ友人と話していた時、オーストラリアの人々の働き方について聞く機会がありました。詳しく調べると、オーストラリアの人々は仕事に対して寛容である、多くの人が2年ほどで転職をする、有給休暇消化率が100パーセントであるなど、日本とは違った情報が多く、驚きました。

日本では、近年、残業や労働災害などが社会問題となっています。私の両親も日々忙しそうに働いていることもあり、日本の人々は仕事熱心であり休まないというイメージがあります。

これをきっかけに、オーストラリアの人々の働き方や私生活について、実際に観察やインタビューを通して調査したいという目標が生まれました。

また、帰国後には研修の成果を、私の家族や友人に発表し、意見交流をすることを最終的な目標としました。

2. 事前の準備

日本の人々の働き方について知るために、身近な大人である両親、先生にインタビューを行い、自分の考えをまとめました。

また、現地でスムーズなインタビューが行えるように、いくつかの質問を考えていきました。

3. シドニーでの体験

1人でホームステイをするということで、最初はとても緊張していましたが、ファミリーの方が優しく迎えてくれたので、楽しい日々を過ごすことができました。現地での生活は、慣れないこともありましたが、その違いも楽しむという姿勢で取り組みました。

ステイ中は、ホストファザーやマザーが働いている姿を見ることはありませんでした。家ではそれぞれ個別の部屋にすることが少なく、皆で会話したり

テレビを見たりして過ごす時間が大半を占めており、家族の時間を大切にしていました。

また、滞在中にスーパーやショッピングモールに行く機会があり、日本との違いを感じたのは、午後6時には閉店する店が少なくないこと、ラフな服装で勤務していたり、勤務中にスマートフォンを触っていたりすることです。

そして、シドニーは観光都市であるということもあってか、店員さんが日本語で話しかけてくれたり、フレンドリーな方が多かったという印象が残りました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

滞在中の目標であった、働き方や私生活の観察、ホストファミリーへのインタビューはもちろん、現地校で日本語を教えている日本人の方や、現地で私たちをサポートしてくださったクレアシドニーの方など、オーストラリアで働く日本人の方々に働き方についての話をたくさん聞くことができ、予想以上の成果が得られました。

また、インタビューや、滞在中関わってくれた人々との会話を通じて、自分の言いたいことを英語で発信し、会話できるようになれたと感じました。

さらに、体験入学先の高校でできた友達と、現在もコンタクトを取り続けることができています。

<課題>

オーストラリアでの働き方について質問することはできても、日本での働き方についてうまく伝えることができず、まだ知識不足だということが分かりました。最終的な目標である意見交流に向けて、日本での働き方についてもっと理解することが私の課題です。

